

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/08seisan/04_jyouhou/0403seiku/seiku.html

第 5 報
千葉県農林水産部
平成 21 年 8 月 3 日

● 早期落水を防止し高品質米生産を!

[生育概況]

7月は、曇天の日が多く、日照時間は平年の8割程度となっていますが、気温が高く推移したことから、出穂期は、4月20日植えの「ふさおとめ」が平年より3日早い7月12日、「ふさこがね」が平年より4日早い7月14日、「コシヒカリ」は4月20日植えが平年より5日早い7月19日、5月1日植えは平年より2日早い7月25日となっています。

成熟期は、「ふさおとめ」が8月13日頃から、「ふさこがね」が8月19日頃から、「コシヒカリ」が8月25日頃からと予測されます。

表 1 品種別の生育遅速と成熟期の予測

品種	植付時期	出穂期の 平年遅速	成熟期予測			
			県北	九十九里	内湾	県南
ふさおとめ	4月20日頃	やや早	8月17日～	8月16日～	8月15日～	8月13日～
ふさこがね	4月20日頃	やや早	8月23日～	8月21日～	8月21日～	8月19日～
コシヒカリ	4月20日頃	早	9月1日～	8月30日～	8月27日～	8月25日～
	5月1日頃	やや早	9月3日～	9月1日～	9月1日～	8月31日～

※ 平年比は過去5か年（2004～2008年）平均値との比較、ただし「ふさこがね」は過去2～4年（2005～2008年）平均との比較。

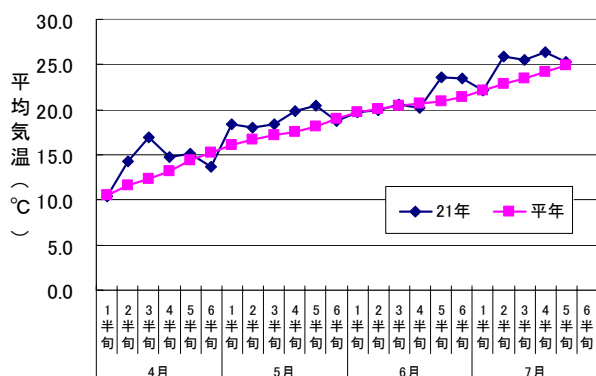


図 1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

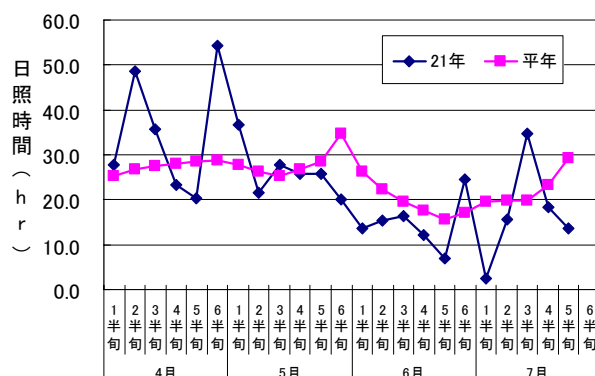


図 2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■ 斑点米カメムシ類の防除

農林総合研究センターの7月15日付け病害虫発生予察注意報では「斑点米カメムシ類（特にクモヘリカメムシ）多発生のおそれ」を呼びかけています。

ほ場をよく見回って、早期発見・適期防除に努めましょう。

- 出穂期には、クモヘリカメムシ成虫が飛来していないか、ほ場を良く見回り、成虫が多い場合には防除を実施する。特に出穂の早いほ場では、成虫の飛来に注意する。
- 防除を実施したほ場でも、その後に侵入した成虫やふ化した幼虫によって被害が発生する可能性があるため、ほ場内でのカメムシ類の発生状況に注意する。
- 主な防除薬剤は次のとおりである。最も防除効果が高い時期は幼虫発生初期である出穂15日後ごろである。薬剤の使用基準（収穫前使用日数）を厳守する。

表2 カメムシ類の主な防除薬剤

薬剤名	有効成分名	10a当たり散布量	使用時期/回数
エルサン粉剤 3DL	PAP	3kg	収穫 7日前まで/2回
スミチオン粉剤 3DL	MEP	3~4 kg	収穫 14日前まで/3回 (注:出穂前散布は1回まで)
スミチオン乳剤 1,000倍液	MEP	—	収穫 21日前まで/3回
バイジット粉剤 2DL	MPP	3~4 kg	収穫 21日前まで/2回
トレボン粉剤 DL	エトフェンプロックス	3~4 kg	収穫 7日前まで/3回
MR. ジョーカー粉剤 DL	シラフルオフェン	3~4 kg	収穫 7日前まで/2回
MR. ジョーカー-EW 2,000倍液	シラフルオフェン	60~150リットル	収穫 14日前まで/2回
ベストガード粉剤 DL	ニテンピラム	4kg	収穫 14日前まで/4回
スタークル/アルバリン粉剤 DL	ジノテフラン	3kg	収穫 7日前まで/3回
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍液	ジノテフラン	60~150リットル	収穫 7日前まで/3回
ダントツ粉剤 DL	クロチアニジン	3~4kg	収穫 7日前まで/3回
ダントツ水溶剤 4,000倍液	クロチアニジン	60~150リットル	収穫 7日前まで/3回
エルサンバッサ粉剤 20DL	BPMC、PAP	3~4kg	収穫 7日前まで/2回

※ 同一成分を含む薬剤は使用回数に注意する。

■ トビイロウンカの防除

農林総合研究センターの8月3日付け病害虫発生予察注意報では県南部地域に対して「トビイロウンカ多発生のおそれ」を呼びかけています。ほ場をよく見回って、早期発見・適期防除に努めましょう。

- 直ちにほ場を見回り、トビイロウンカの寄生状況を確認する。他のウンカ類（セジロウンカ、ヒメトビウンカ等）は上位の葉鞘にも寄生するが、トビイロウンカは株元を中心に寄生しているので、株元をしっかりと観察する。トビイロウンカは、体全体が大きく、体色は脂ぎった褐色をしているので区別できる。
- 発生の多いほ場でも1週間以内に収穫予定の稲は、薬剤散布を行わず早めに刈り取る。
- 収穫まで1週間以上あるほ場で坪枯れが発生し始めた場合には、直ちに防除を実施する。また、株元に株当たり5頭以上のトビイロウンカを確認したら、早期に薬剤防除を実施する。

○本虫の生息は、株元に限られるので薬剤は株元にまで到達するようにていねいに散布する。また、収穫間近の防除になるので、薬剤の使用基準（収穫前使用日数）に注意し、厳守する。

表 3 ウンカ類の主な防除薬剤

薬剤名	有効成分名	10a 当たり散布量	使用時期/回数
エルサン粉剤 3DL	PAP	3kg	収穫 7 日前まで/2 回
ハッサ粉剤 DL	BPMP	3~4kg	収穫 7 日前まで/5 回
トレボン粉剤 DL	エトフェンプロックス	3~4kg	収穫 7 日前まで/3 回
MR.ジョーカー粉剤 DL	シラフルオフェン	3~4kg	収穫 7 日前まで/2 回
スタークル/アルバリン粉剤 DL	ジノテフラン	3kg	収穫 7 日前まで/3 回
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤 3,000 倍液	ジノテフラン	60~150 リットル	収穫 7 日前まで/3 回
ダントツ粉剤 DL	クロチアニジン	3~4kg	収穫 7 日前まで/3 回
ダントツ水溶剤 4,000 倍液	クロチアニジン	60~150 リットル	収穫 7 日前まで/3 回

※ 同一成分を含む薬剤は使用回数に注意する。

■ いもち病の防除

農林総合研究センターの 7 月 15 日付け病害虫発生予察情報では、いもち病（穂いもち）の発生予想量を「やや多」としています。葉いもちが穂いもちの伝染源となります。特に止葉などの上位葉に病斑が多数見られる場合は、穂への感染が助長されるので、早急に防除を行いましょう。

○穂いもち防除は予防が重要であり、発病してからでは手遅れとなることが多い。

○出穂前、葉に進行型病斑が多数みられる場合は、直ちに表 4 の防除薬剤のいずれかを散布する。

○出穂期に入っても上位葉に病斑が多くみられる場合は、表 4 の茎葉散布剤（乳剤、粉剤、液剤等）を散布する。

○出穂期以降もさらに発生が続くときは、天候等を考慮した上で、乳熟期頃にも追加散布を行う。

表 4 いもち病の主な防除薬剤

薬剤名	10a 当たり使用量	使用時期/使用回数	作用性
コラトップ粒剤 5 コラトップジャンボ	3~4kg 10~13 個	穂いもちに対しては出穂 30 日~5 日前まで/2 回	予防
フジワン 粒剤	3~5kg	穂いもちに対しては出穂 30 日~10 日前まで、ただし収穫 30 日前まで/1 回	
フジワン 粉剤 DL フジワン 乳剤	3~4kg 1,000 倍/120~150 リットル	収穫 45 日前まで/1 回	予防・治療
ラブサイド粉剤 DL	3~4kg	収穫 7 日前まで/6 回、ただし穂ばらみ期以降は 4 回以内	
キタシン P 粒剤	3~5kg	穂いもちに対しては出穂 20 日~7 日前まで/2 回	
〔耐〕アチーブ 粒剤 7 〔耐〕アチーブ 粉剤 DL 〔耐〕アチーブ MC	3~4kg 3~4kg 2,000 倍/60~150 リットル	穂いもちに対しては、出穂 30 日~5 日前まで、ただし収穫 21 日前まで/3 回 収穫 14 日前まで/3 回	
カスラブサイド粉剤 DL	3~4kg	収穫 14 日前まで/5 回、ただし穂ばらみ期以降は 4 回以内	治療
ヒノザン 粉剤 25DL ヒノザン 乳剤 30	3~4kg 1,000 倍/-	収穫 21 日前まで/3 回	
ブラシン 粉剤 DL ブラシン フロアブル	3~4kg 1,000 倍/-	収穫 21 日前まで/2 回	
カスミン 粉剤 DL カスミン 液剤	3~4kg 1,000 倍/-	収穫 14 日前まで/5 回	治療

※ 〔耐〕：MBI-D 剤（ウィン、テラウス、アチーブ）に対するいもち病の耐性菌の発生が、西日本を中心に他県で広く確認されている。

■ 農薬の飛散防止

農薬の散布に当たっては、周辺への飛散を防止するため次に示す事項に注意しましょう。

- 風の弱いときに風向きに注意して散布する
- 散布の方向や位置に注意する
- ドリフト低減ノズルなど適切なノズルを用い、適正な圧力で散布する
- 適正な散布量で散布する
- タンクやホースの洗浄を徹底する
- 近接する住宅や作物の生産者等と連携する
- 緩衝地帯を設ける
- 遮蔽物を設ける
- 飛散しにくい農薬や剤型を選ぶ

■ 適正な水管理の徹底

○ 出穂前 3 週間～出穂後 2 週間は湛水管理

自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために、「出穂前 3 週間～出穂後 2 週間の湛水管理」が有効です。「安全・安心」な米作りのために対策を励行しましょう。

※食品衛生法のコメ規格基準の見直しに伴い、今年度中にカドミウムの残留基準が 1.0ppm から 0.4ppm に引下げられる見込み

○ 出穂 2 週間後～出穂 25 日後までは間断かんがい

米粒の充実と品質向上のために出穂後 25 日までは水が必要です。収量と品質とに悪影響を与えるので、早期落水は絶対にやめましょう。

根の活力を維持するためにも、「出穂 2 週間後～出穂 25 日後までは間断かんがい」に努めましょう。

■ 適期収穫

良品質米の生産のため収穫は適期に行いましょう。

収穫は登熟状況を十分に観察し、帯緑色籾歩合 15%の時にいきましょう（注：帯緑色籾歩合は生育中庸な 10 株から中位の穂を選び、不稔籾を除いて数えます。図 3 参照）。

なお、各品種ごとの収穫期の目安は、出穂期（全穂数の 40～50%が出穂した日）から、「ふさおとめ」で 33 日前後、「ふさこがね」で 37 日前後、「コシヒカリ」で 38 日前後です。早刈りでは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させます。

また、収穫した籾を 3 時間以上炎天下に放置しておくと、品質が低下します。収穫後は速やかに乾燥しましょう。

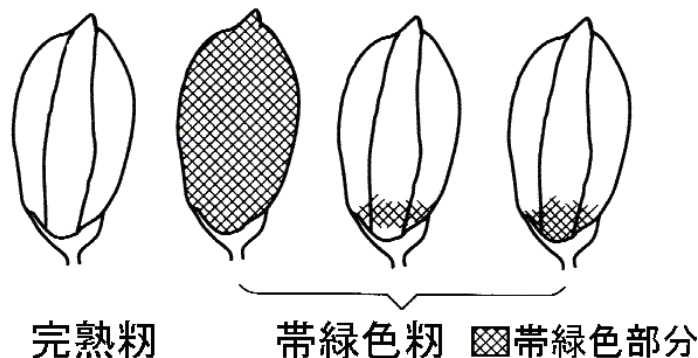


図 3 帯緑色籾の見分け方

■ 仕上げ水分

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割れ米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥は平均毎時乾減率0.7~0.8%で行い、仕上げ水分は14.5~15.0%とします。

また、籾摺りは、乾燥後、穀温が高い状態で行うと肌ずれ米や胴割米を生じますので、十分放冷し穀温を下げてから行ないましょう。

■ 選別には 1.8mm 以上の網目

粒厚1.8mm以上の米は粗タンパク含量が低く、美味し いお米です。

選別の網目は、1.8mm 以上にしましょう。

■ 異品種混入の防止

異品種の混入を防止するため、コンバイン、乾燥機、籾すり機の清掃をていねいに実施しましょう。

■ 生産履歴記帳

「売れる米づくり」に栽培管理の記録は不可欠です。集荷団体では、出荷に当たって「生産履歴」(栽培管理記録簿)の提出をお願いしています。もう一度記録簿を確認しておきましょう。



図4 ふさこがね 7月28日 千葉市緑区刈田子町